



自己有用感

埼玉県学力学習状況調査の結果が返却され、校内研修で共有・分析し、年度後半の学級経営や授業改善に生かしているところです。この調査には、いわゆる学力テストともう一つ「質問紙調査」というものがあります。

「質問紙調査」は学校生活や家庭生活等の様子をアンケート形式の問題に、「当てはまる」「どちらかという当てはまる」「どちらかという当てはまらない」「当てはまらない」のいずれかを選ぶものです。

1年生～3年生を分析したところ、「学校の生活が楽しい」「先生も友達も自分のことを認めてくれた」「先生は熱心に勉強を教えてくれる」と思っている生徒が非常に多いということでした。1年生は県の平均値と同程度ですが、2・3年生はその差が顕著でした。決して手前味噌ではなく、本校の誇れるべき点であると言えます。その具体的な数値を公表できないことをもどかしく思う程です。以下、県平均を上回っている項目をお示しします。実は、項目によっては県の平均値を15%以上も上回っているものもあります。

- ・ 先生の話や友達の発表をしっかりと聞き、自分の考えを伝えることができていますか。
- ・ (前年度) 学級での生活は楽しかったですか。
- ・ (前年度) 学級は落ち着いて学習する雰囲気はありましたか。
- ・ (前年度) あなたの学級はいろいろな活動にまとも取り組んでいたと思いますか。
- ・ 学校の先生たちは自分のよいところを認めてくれましたか。
- ・ 学校の先生たちは自分の悩みの相談にのってくれましたか。
- ・ 学級の友達は自分のよいところを認めてくれましたか。
- ・ 先生は授業やテストで理解していないところや間違ったところについて、わかるまで教えてくれましたか。
- ・ わからないことなどを質問しやすい雰囲気で行われたこと。
- ・ グループやペアで話し合ったり意見や考えを出し合ったりして課題を解決したこと。

県教育委員会は昨年度の埼玉県学力・学習状況調査の分析を通して、良い学級経営（落ち着いた学級づくり）や子供と教員の関係性の良いことが学力向上の要因という結果報告をしています。当たり前ですが、学級の雰囲気が悪く、子供と教員の関係も悪ければ授業も活発な発言や話し合いも停滞し、学力の向上は期待できません。「教室はまちがうところだ」と言われますが、教師の質問に間違った答えを言って、友達からバカにされたら、その生徒は二度と答えようとはしないでしょう。

リーダーシップやフォロワーシップが保たれていて、「和」があり、穏やかながらも行事等に集中して取り組めるメリハリある学級を「支持的風土（しじてきふうど）」のある学級と言います。何よりも生徒が、所属感・帰属感をもてること、「自分の居場所」があることが大事です。学級経営と学力向上は車の両輪です。これはまさに鴻巣西中の目指す「西中プライド」です。

ただし、本校生徒は学力テストの面では県平均には及ばないところもあります。その時はわかったつもりでも、復習や見直しが不十分なため確実な定着には至らないというのが課題です。伸びる土台は十分にあるので、教科書の読み込み、ノートや学習プリントの見直し、確認テスト等で見届けをすると良いかと思います。

先日、ある広告コピーを引用して、職員に、「先生は『がんばろう』を言い換える名人であってほしい」ということを伝えました。保護者の皆様もお子様に励ましや称賛の言葉がけをお願いいたします。

(校長 橋本 浩)